



トラックの特性（1）

今月から3回連続で、乗用車を運転するドライバーが事故を防止するために知っておくべき「トラックの特徴」について解説します。

＝車長と運転特性＝

車体の長いトラックは動きが乗用車と異なる

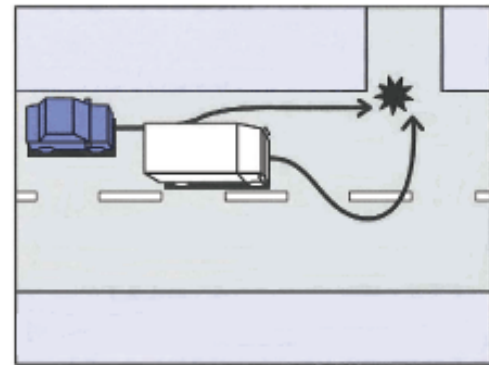
1. 左折時に右にふくらむ

車両が右左折するとき、後輪は前輪よりも内側の軌道を通ります。これを内輪差といいます（図1）。内輪差はホイールベース（前輪の車軸の中心から、後輪の車軸の中心までの長さ）が長いほど大きくなりますから、車体の長いトラックは乗用車よりもかなり内輪差が大きくなります。そのためトラックは、狭い道路へ左折する際に、いったん右にふくらんだのち左に大きく曲がっていくことがあります。しかし、それをトラックの右折と勘違いし、後続車が左側をすり抜けようとするとき事故につながります（図2）。

図1



図2



■事故防止のポイント

- ・トラックが左のウィンカーを出してから右に進路を変えたときは、右折するのではなく、左折のために右にふくらんだと考える。
- ・トラックが右にふくらんでから左折しようとするときは、その左側をすり抜けて先へ行くとはせず、トラックを先に左折させる。

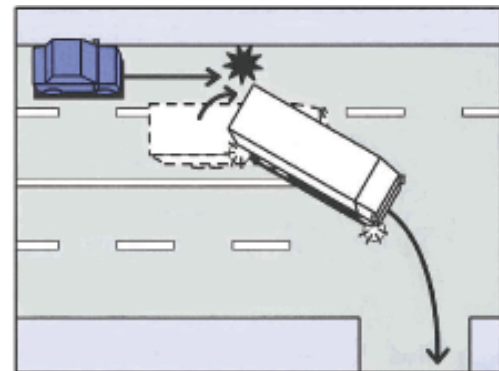
2. 右折時に車体後部が振れる

後輪と車体後部との距離をリアオーバーハングといいます。リアオーバーハングは、乗用車ではほとんど問題になりませんが、トラックでは大きくなるため、右折時に車体後部が左側に振れて、側方を通過しようとする後続車と接触することがあります（図3）。

■事故防止のポイント

- ・右折するトラックの側方を通過するときは、トラックとの側方間隔を十分とる。

図3



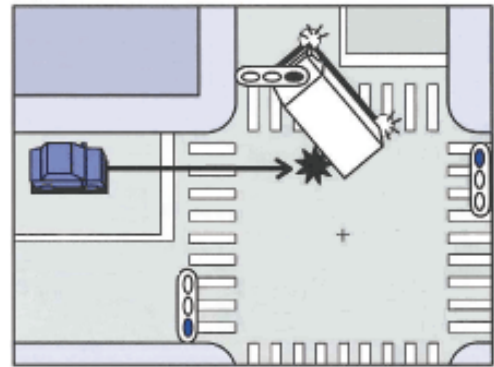
3. 右折完了までに時間がかかる

車体の長いトラックは、右折を完了するまでの時間が乗用車よりも長くなります。そのため前方の交差点を対向トラックが右折しているとき、乗用車の右折と同じ感覚、タイミングで直進すると、右折が完了していないトラックの後部に衝突することがあります（図4）。

■事故防止のポイント

- ・前方の交差点をトラックが右折しようとしているときは、スピードを落として、トラックの動きに注意する。

図4



車体の大きいトラックとの事故に巻き込まれた場合、乗用車側のダメージが大きくなる恐れがあります。

ドライバーはトラックが関係する交通状況に接した際には細心の注意を払い、安全運転を心がけましょう。

(2009年9月作成)